

1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

【評価実施概要】

事業所番号	4090700099
法人名	特定非営利活動法人 グループホームやまびこ
事業所名	グループホーム いなほ園
所在地 (電話番号)	北九州市八幡西区町上津役東2丁目21-44 (電話)093-612-1500

評価機関名	(株)アーバン・マトリックス 評価事業部		
所在地	北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成21年6月29日	評価確定日	平成21年8月6日

【情報提供票より】(平成21年 6月17日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 19年 11月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤	7人, 非常勤 2人, 常勤換算 8人

(2)建物概要

建物構造	木造平屋造り
	1階建ての1階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	51,000 円	その他の経費(月額)	(光熱水費)1日100 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(150,000円)	有りの場合 償却の有無	有(期間:1年)	
食材料費	朝食	550 円	昼食	550 円
	夕食	550 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

(4)利用者の概要(6月17日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	1 名	要介護2	2 名		
要介護3	4 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84.5 歳	最低	63 歳	最高	94 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	三浦整形外科・内科クリニック / 有松歯科医院 / 黒田クリニック / 東筑病院
---------	--

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「いなほ園」は住宅街に位置し、スーパー等も近く利便性の高い環境の中にあるグループホームである。庭の花壇には季節の花々が植えてあり、また玄関ホールやリビングにも、活け花や季節感ある飾りつけがなされており、四季の変化を十分に感じることができる。清潔感あふれる和室には、入居者の好みの品がその人の活動能力に合わせて、使いやすいように配置されている。入居者は職員とともに行事に参加し、地域に密着した事業所になるよう積極的に取り組んでいる。その取り組みは、「日常生活状況報告便り」にて家族に郵送され、家族は高い安心と信頼を寄せている。開設2年目過ぎ、管理者・職員は、地域の中で安心・安定・安住して自分らしく自立した生活が継続できるように、地域社会を豊かで住みやすくするため、福祉の増進に力を入れている。いつまでも「頭を垂れる稲穂のごとく」をやまびこのモットーとして、今は種を蒔き実りをもたらすために、日々取り組んでいる。管理者の言葉の先には、将来の介護の世界が描かれており、家族にとっては、入居者の生き生きと明るく元気な様子が、大きな喜びとなっている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価では、地域密着型サービスとしての理念において、今後の実績を踏まえて、より進化した理念の再検討があげられていた。法人としての「やまびこの誓い」は、地域密着型サービスとしての役割を目指した内容となっている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は、管理者が作成し会議で全職員に確認している。今後は、職員一人ひとり自己評価に取り組み、介護サービスの質の向上に繋げていく事が望まれる。
重点項目	運営推進会議の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議は2ヶ月に1回定期開催されており、家族や地域の方々への報告や意見交換がなされている。評価結果も資料として配布されている。多彩なメンバー構成により多くの意見を引き出し、運営に活かし、サービスの質の向上に努めている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8,9)
	月末に担当職員より家族に「日常生活近況報告書」として手紙を書き、入居者の園での日常生活状況、身体状況等詳しく報告されている。入居者の負担金等も、請求書に明細を付して同封されている。また、面会時や運営推進会議等へ家族の参加も多く、暮らしの状況を報告する機会を得ている。また個々の対応及び相談も迅速に対応、改善が行われている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	自治会に加入し、町内の運動会、夏祭り、どんと焼き等の地域行事に参加し、交流が行われている。また、施設行事には地域の参加もあり、ボランティアの方が頻りに訪問されたり、入居者がボランティアの家庭に遊びに行く等、地元の人々との交流が積極的に行なわれている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	認知症の介護の基本「ゆっくり、一緒に、楽しく」を法人としての理念に掲げ、入居者一人ひとりに合わせたケアを展開する基になっている。また事業所として、地域密着型の趣旨を踏まえた、住み慣れた地域の中で、その人らしい暮らしの継続を支援するという基本方針を示している。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	施設内に理念を掲示し、全員が周知できるように日々確認に努めている。また、毎朝10時の挨拶の時に入居者と共に唱和し共有を図っている。「頭を垂れる稲穂のごとく」をモットーとし、【やまびこの誓い】は地域密着型サービスとしての役割を目指した内容となっている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、町内の運動会、夏祭り、どんと焼き等の地域行事に参加し、交流が行われている。また、施設行事には地域の参加もあり、ボランティアの方が頻りに訪問されたり、入居者がボランティアの家庭に遊びに行く等、地元の人々との交流が積極的に行なわれている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、管理者が作成し会議で全職員に確認している。今後は、職員一人ひとりが自己評価に取り組み、介護サービスの質の向上に繋げていく事が望まれる。		自己評価を職員全員で取り組むことにより、日々のケアの確認・見直しの機会として活かしていくことが望まれる。
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回定期開催されており、家族や地域の方々への報告や意見交換がなされている。評価結果も資料として配布されている。多彩なメンバー構成により多くの意見を引き出し、運営に活かし、サービスの質の向上に努めている。		

グループホーム いなほ園

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村担当窓口との意見交換により、事業所の実情、ケアサービスの取り組み等伝えている。協力関係も構築され、地域密着サービスとしての積極的な連携に取り組んでいる。		
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人には、それらを活用できるよう支援している。	日常生活自立支援事業や成年後見制度に関するパンフレットや書籍を揃え、必要となった場合には活用できるように、職員及び家族への周知を図っている。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月末に担当職員より家族に「日常生活近況報告書」として手紙を書き、入居者の園での日常生活状況、身体状況等詳しく報告している。入居者の負担金等も、請求書に明細を付して同封されている。面会時や、運営推進会議等への家族の参加も多く、暮らしの状況を報告する機会が多い。		
9	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置している。家族には常に問いかけ、何でも言ってもらおう雰囲気作りに留意している。苦情・意見があった場合は、ありがたい意見として受け止め、ミーティングで改善策を話し合い、迅速な対応に努めている。		
10	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内の異動によりスタッフの資質の向上、新たな学びの機会とする場合はあるが、なるべく避けるように配慮している。やむを得ない場合は、引き継ぎや時期について十分に配慮し、入居者へのダメージを最小限にしている。		
5. 人材の育成と支援					
11	19	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している。	職員の採用にあたっては、性別や年齢等を理由に採用対象から排除していない。また、職員の昇給昇進の機会を増やしたり、外部研修への参加及び資格取得の支援を積極的に行っている。		

グループホーム いなほ園

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
12	20	人権教育・啓発活動	法人として、入居者のすべての方が、誇りをもって暮らすことを支えるという「やまびこの誓い」を掲げている。「認知症の人の望ましい接し方及び暮らし」についてグループワークが行われ、人権・人格を尊重したサービスの提供方針とともに、人権教育・啓発活動に取り組んでいる。		
		法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育・啓発活動に取り組んでいる。			
13	21	職員を育てる取り組み	定期的に研修の時間を設けたり、外部研修にも参加し、それらの研修報告は職員に資料として配布され、職員の知識や意欲の向上を図っている。産業医大の実習生の受け入れ体制もあり、指導する事により職員の知識・技術等共に学ぶ機会となっている。		
		運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている			
14	22	同業者との交流を通じた向上	福岡県高齢者グループホーム協議会に入会し、勉強会や懇親会等で交流が行われている。同法人の「グループホームやまびこ」との交流等により、サービスの質の向上に向けての取り組みにも努めている。		
		運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている			
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
2. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用	本人や家族に安心してサービスを利用してもらうためにも、見学から始めて、食事を一緒に食べてみたり、半日だけの利用等、徐々に馴染みながら本人の負担とならないように、柔軟に支援している。		
		本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気などに徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係	掃除や洗濯等、お互いが協力しながら和やかな生活が出来るような場面づくり、声かけがなされている。一緒にドライブや買い物に出掛け楽しい時間を過ごしたり、時には職員の悩みを聞いてもらこともあり、喜怒哀楽を共にしながら支えあう関係を築いている。		
		職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている			

グループホーム いなほ園

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1.一人ひとりの把握					
17	35	思いや意向の把握	一人ひとりの入居者との日々の関わりの中で、コミュニケーションの機会を大切に、信頼関係を築きながら思いや意向の把握に努めている。生活歴等のアセスメントを行い、意思疎通が困難な場合には、本人本位の検討を行なっている。		
		一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している			
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	チームでつくる利用者本位の介護計画	本人・家族の意向を大切に、本人本位のニーズを明確にしたうえで、関連施設との連携により、個別・具体的な介護計画が作成されている。		
		本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している			
19	39	現状に即した介護計画の見直し	介護計画に沿って、日々の特記事項、日々の結果・判断等を業務日誌に記載し、毎月のミーティングでモニタリング・見直しが行なわれている。状況の変化があった場合には、その都度検討・見直しを行なっている。		
		介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している			
3.多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	事業所の多機能性を活かした支援	本人・家族の状況に応じて外食やボランティア宅訪問、通院介助等柔軟に対応し、個々の満足を高めるよう努力している。また、医療連携加算の体制も整えている。入居者や家族からの要望により、状況に応じて柔軟な支援が行えるように取り組んでいる。		
		本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている			
4.本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	かかりつけ医の受診支援	三浦整形外科・内科クリニック、黒田皮膚科、有松歯科医院と往診できる体制を整えていると共に、必要であれば他科にいつでも受診できるようにしている。また、受診結果に関する情報は、家族と共に共有できるようにしている。		
		本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している			

グループホーム いなほ園

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有	重度化や終末期に対する対応について、かかりつけの医師と共に家族に事業所の方針を説明している。早い段階から繰り返し話し合いを行い、職員間でもミーティングで方針を確認している。協力医とともに24時間対応の体制も整えられている。		
		重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している			
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底	プライバシーの尊重と守秘義務の徹底、自尊心を傷つけない声かけ、対応に全職員で取り組んでいる。個性を重視し、その方らしい生活が送れるよう支援している。記録等についても個人情報保護法の理解に努め、ロッカー内に保管・管理されている。		
		一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない			
24	54	日々のその人らしい暮らし	入居者一人ひとりのペースや体調に合わせ、自由に過ごせるよう支援している。また、「何かしたい」「どこに行きたい」という希望がある場合は、入居者の意向の実現に努め、できる限り満足した日々を送れるように支援している。		
		職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している			
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援	食事の配膳や盛り付け、後片付け等に、入居者個々の力を活かした参加がある。メニューにも工夫がなされ、職員と共に美味しいものを楽しく食べる配慮がなされている。		
		食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている			
26	59	入浴を楽しむことができる支援	入居者の希望を大切に一番風呂がいい方、最後にゆっくり入りたい方など、できるだけ一人ひとりの意向を第一に、くつろいだ気分で入浴できるよう支援している。		
		曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している			

グループホーム いなほ園

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	一人ひとりその人にあった役割が持てるよう支援している。菜園での野菜作り・花壇の手入れ等、各自の生活歴を活かした支援がなされている。また、活力を引き出す楽しみやレクリエーション等、楽しく過ごせるよう支援がなされている。		
		張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている			
28	63	日常的な外出支援	希望に沿って、できる限り散歩や買い物、ドライブに出掛け季節を楽しんでいる。近くへの散歩だけでなく、その人の馴染みの店や場所にも出掛けている。入居者が重度化している場合でも本人に合わせた移動を支援し、外出希望がない方にも時には外出を促し、気分転換ができるようにしている。		
		事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している			
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践	入居者の安全を確保しながら、日中鍵をかけないケアに取り組んでいる。リビングから玄関入口迄にドアがあり、玄関入口にチャイムが設置されている。また、施錠する場合は理由を家族へ報告し、了承を得てから行っている。		
		運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる			
30	73	災害対策	年に2度、八幡西消防署の協力による訓練と、自衛消防訓練を実施している。地域住民の協力を得て災害時のための「地域者緊急連絡簿」を作成し、訓練時には地域の方々の参加もある。避難経路、避難場所は全職員が把握し、落ち着いた対応ができるように努めている。		
		火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている			
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援	栄養バランスに配慮された献立が作成され、食事摂取量を記録し、職員間で共有している。個々の状況にあわせて、食事形態や調理方法に柔軟に対応している。		
		食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている			

グループホーム いなほ園

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり	共有の空間には、季節に応じた花や写真、地域の方から贈られた手作りの作品が飾られている。リビングでは、茶碗を洗う音やご飯の炊ける匂い等、生活感を感じ、自分の家に住んでいるという意識を高める工夫がなされている。入居者同士で話し込んだり、1人でくつろぐことができるようにソファの位置なども工夫がなされている。		
		共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている			
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮	居室の入口には、表札を掲げている。居室は畳で、入居者が以前使用していた馴染みのタンスや鏡台、写真や使い慣れた日用品が置かれており、生活スタイルに合わせて、居心地の良い安心して過ごせる場所作りの工夫をしている。		
		居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている			